

切花として利用可能な野の花

農業研究センター 高原農業研究所

研究のねらい

阿蘇の高原には数多くの野の花が自生しており、人々は昔から盆花としてこれらの花を利用してきた。また最近では華やかな洋花に対し、ひっそりとした野の花が静かなブームとなっている。

そこで、これら野の花を特産花きとして商品化する目的で、切花として利用可能な品目の検索を行った。

研究の成果

高原地域に自生する野の花を雨よけハウス内で栽培し、形状、採花本数等の特性を調査した結果、切花として利用可能な品目として次の6品目を選定した。

1. ハナシノブ

ハナシノブ科の多年草。採花は6月上旬から始まり、6月中旬が最も多い。その後10月までだらだらと続く。切花長はおよそ95cmで、花房は開花の早いものが大きい。

2. ヒロハトラノオ

ゴマノハグサ科の多年草。採花は主枝が6月中旬から始まり、7月中下旬が中心で、側枝の採花は10月までだらだらと続く。採花始め頃の切花長は85cm程度、花穂長は25cm程度で、ともに時期が遅くなると短くなる。

3. ホソバオグルマ

キク科の多年草。採花は7月上旬から始まり、7月中下旬が中心である。切花長は約100cmで、花房は採花時期が早いほど大きい。

4. ヒゴシオン

キク科の多年草。採花時期は9月下旬～10月上旬が中心で、切花長は85cm程度である。

5. アキノキリンソウ

キク科の多年草。採花期は9月下旬～10月上旬で、切花長はおよそ90cmである。

6. タムラソウ

キク科の多年草。採花期は9月下旬～10月中旬が中心で、切花長はおよそ60cmである。



ハナシノブ



ヒロハトラノオ



ホソバオグルマ



ヒゴシオン



アキノキロンソウ



タムラソウ